

平成 15 年度 長崎国際大学入学試験問題

一般学力 B 日程入試

国語〔国語Ⅰ・国語Ⅱ〕 (100点 60分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、24 ページあります。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マーク（●印）しなさい。
 - ① 受験番号欄
受験番号（数字）を記入しなさい。
正しく記入されていない場合は、採点できないことがあります。
 - ② 氏名欄
氏名・フリガナを記入しなさい。
 - ③ 志望学科欄， 解答科目欄， 試験会場欄
該当する欄にマーク（●印）しなさい。
- 4 解答は、解答用紙の解答欄にマーク（●印）しなさい。例えば

10

 と表示されてある問いに対して③と解答する場合は、次の（例）のように解答番号 10 の解答欄の③の欄にマーク（●印）しなさい。

（例）

解答 番号	解 答 欄				
	①	②	③	④	⑤
10			●		

- 5 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 6 試験終了後、問題冊子は机上に残しておきなさい。

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～9）に答えよ。

いま日本人はものごとをどう考えたらいいかわからなくなって、途方に暮れている。日本語のことがあれこれ取り沙汰されるのは、そのせいではないか。

A 日本は西洋の真似をして国家を作った。そのとき国語も作った。標準語も口語文もこのときに出来て、それによって列島を結びつけ一体化することが可能になった。これが日本語である。しかしせっかくこしらえたのに、国民の日本語能力は低いと判断された。そこで、これは日本語がむずかしいからいけないのだ、易しくすればいいと考えて、漢字を制限し仮名づかいを改めようという案が出された。国語改革の（ア）志コウである。もちろん反対する者もいた。すったもんだが何十年もつづいたあげく敗戦の騒ぎのなかで断行された。それは何となく成功したように見えたが、国民の読み書き能力の向上は、実を言うと他の条件（教育の普及、おもしろい読物の激増、その他）に（イ）ウナガされたものだったとわたしは思う。しかしそのへんのこととは差当りどうでもない。ここで大事なのはむしろ国語改革の理念を洗い立てることである。あれは近代日本の支配的な言語観を（ウ）ロ骨に示しているからだ。

国語改革は読み書き能力を高めたいという欲求から生れた。工員が機械の操作法を読み、作業日誌を記せる。兵士下士官が歩兵操典を読み、斥候報告書を書ける。そういう能力を近代日本は求めた。あるいは、**B** そういう目的に使われる言葉だけを重視した。 技師や将校の場合も（エ）大スジは変らない。

しかし言語には伝達の道具という局面のほかに、思考の道具という性格がある。人間は言葉を使うことができるから、ものが考えられる。言葉が存在しなかったら、思考はあり得ない。その思考の道具としての日本語についてはちっとも配慮しないのが近代日本の言語政策であったし、言語観であった。

明治日本は、民衆がものを考えないでいてもらいたいと望んだ。彼らが何か考えるのは危険なことだから、禁止して、教育勅語を素直に受け入れ、それ以上（以外？）のことは考えない者を理想の国民像として思い描いた。その（カ）風（キ）チヨウは長くつづく。いわゆる四〇年体制も、それから日本株式会社も、思考を尊重したり（カ）シヨウ励したりはしなかったし、（ク）その道具としての日本語の機能（キ）を高めようという気運は起らなかった。単語には意味内容を明確に指示する力が乏しくてもかまわないし、（ク）エン曲語法は社交術や礼儀作法を通りこして、話をとりとめなくするのに役立った。日本語を厳密な理論に向くものにしてしよう、精細な分析に適したものにしてしようとする作業はなおざりにされた。当然のことながら、（ク）着（キ）实的確に言葉を使って相手を説得し納得させる工夫、整然と反論し巧みに論駁する技術など、必要だと認められるはずがない。典型的なのは政治家の場合である。近代民主政治で大事なのは言葉だそうだが、わが政界の大物はみな辻つまの合わないことを口にし、（ク）曖（キ）マイ矇（キ）朧たる言辞を弄する。かつては御稜威のもと大政翼賛して国が亡んだ。いまは毅然たる態度で肅々と事を進め、国が傾く。こういう風土では、どの分野においても、（ク）E周到な探求のあげくに訪れる妙想など伝説の世界にしか属さないし、アイデアは盗むのが手っ取り早いことになるだろう。

ものを考えないし、また考えるのに向いてないという事情をよく示すのが、日本語における生活語と観念語のはなはだしい乖離である。前者では「世の中」と言うものが後者では「社会」、前者では「有りの儘」と言うものが後者では「現実」。知は暮しの現場から遠くなり、思索は専門家に任せられた。ところが玄人筋の観念語のあやつり方にしたって、もともと（ク）F実感の薄い言葉の組合せだから、磨きあげるのがむずかしかつたのである。

総じて言えば大衆と知識人との両方の側で、思考の道具としての言語が整備していない。成熟していない。これが日本語問題の急所、あるいは一番つらい所なのだが、このことは在来ほとんど取上げられなかった。言語能力とは字面だけのことに限定された。自分の言いたい事柄をはっきりと認識し、まとめあげる力や、相手の言い分をよく理解し、もし必要があれば問い返したり反論し

たりする力と読み書き能力との関係は、無視されつづけてきた。

いま日本経済はあやうく、政治はひどいことになっている。一方、日本語に対する関心がすこぶる高い。この二つの現象は別々のことのように受取られているけれど、実は以外に(エ)密セツな関連があるはずだ。というのは、誰も彼もが国を憂えているが、しかし何をどう考えたらいいか、わからない。何も頭に浮かばない。そこで、これはG考えるための道具である日本語の性能が低いのではないかと不安が生じたのだ。みんなの心の底で、(ヨ)バク然と。

(丸谷才一「考えるための道具としての日本語」『朝日新聞』2002年7月31日)

問1 傍線部(ア)～(コ)は熟語の一部である。これに当る漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれひとつずつ選べ。解答番号は

1 10。

1 (ア) 志|コウ

- ① コウ上心
- ② コウ漢
- ③ コウ座
- ④ コウ臭
- ⑤ コウ法

2 (イ) ウナガ|された

- ① 遠ソク
- ② 蛇ソク
- ③ 督ソク
- ④ 規ソク
- ⑤ 約ソク

3 (ウ) 口|骨

- ① 口端
- ② 口律
- ③ 口傍
- ④ 口馬
- ⑤ 口呈

10 (ヨ) バク|然

⑤ ④ ③ ② ①
猛バク 茫バク 倒バク 賭バク 燕バク

7 (キ) エン|曲語法

⑤ ④ ③ ② ①
エン談 エン語 エン慮 エン大 エン辺

4 (エ) 大スジ

⑤ ④ ③ ② ①
解キン 細キン 貯キン 腹キン 平キン

8 (ク) 暖マイ|矇朧

⑤ ④ ③ ② ①
大マイ 白マイ 獅子マイ 姉マイ 蒙マイ

5 (オ) 風チヨウ|

⑤ ④ ③ ② ①
チヨウ躍 チヨウ汐 チヨウ辞 チヨウ候 チヨウ笑

9 (ケ) 密セツ|

⑤ ④ ③ ② ①
新セツ 屈セツ 稚セツ 隣セツ 関セツ

6 (カ) シヨウ|励

⑤ ④ ③ ② ①
シヨウ費 シヨウ号 シヨウ学金 シヨウ額 シヨウ格

問2 二重傍線部A「日本は西洋の真似をして国家を作った。そのとき国語も作った」とあるが、**a**どんな真似か、**b**どんな

国家ができたか、**c**どんな国語だったか、**d**国語を作ったことよってどんな変化があったか。また、**e**一般的に国語と

日本語との違いは何か、最も適切なものを、それぞれ①～⑤から選べ。解答番号は 11 ～ 15。

a どんな真似か 11

- ① 西洋をまるごと肯定するのではなく、必要な部分のみを必要に応じて取り入れた。
- ② 西洋をまるごと肯定するのではなく、むしろ否定的に真似をしていった。
- ③ 西洋をまるごと肯定して、イギリス・ドイツ・アメリカなどを厳密に区別し、各国の要素を融和し、できるだけすべてを取り入れようとした。

④ 西洋をまるごと肯定して、ファッションのみを輸入し、これを着こなそうとした。

⑤ 西洋をまるごと肯定して、隅々まで忠実に日本国内において西洋を再現することが、日本流の真似だった。

b どんな国家ができたか 12

- ① 中央集権国家
- ② 地方分権国家
- ③ 多元的国家
- ④ 都市型国家
- ⑤ 農村共同体的国家

c どんな国語だったか

13

- ① 事柄をぼかして争いごとのないよう意図された国語。
- ② 厳密な表現に耐えうるように意図された国語。
- ③ 地域の特性を生かした言語としての国語。
- ④ 規格化され平準化された言語としての国語。
- ⑤ 発音平易化により使いやすさを意図した国語。

d 国語を作ったことよってどんな変化があったか

14

- ① 地方の独自性を全国規模で主張できるようになった。
- ② 大都市の流行がそのまま地方にまで波及するようになった。
- ③ 地方の中小都市が台頭してきた。
- ④ 標準化され平均化された社会ができあがった。
- ⑤ あまり大きな変化はなかった。

e 一般的に国語と日本語との違いは何か

15

- ① 国語という言い方と日本語という言い方に違いはない。
- ② 国内共通語のことを国語といい、方言を包摂したものが日本語である。
- ③ 細かな違いはないけれども、強いていえば、語感の問題で使い分けている。
- ④ 国語は古い言い方で、日本語は新しい言い方である。
- ⑤ 国語は前近代の語法を含むが、日本語は現代用いられている語法のみをいう。

問3 二重傍線部B「そういう目的に使われる言葉」とあるが、**a** どのような目的か、**b** どのような言葉か。具体的事例ではな

いものを①～⑤から選べ。解答番号は 16 　　17。

a 「そういう目的」とはどのような目的か 16

- ① 機械の操作マニュアルを読むという目的。
- ② 新商品開発のためにアイデアを出し合うという目的。
- ③ 作業日誌を書いて円滑な引継を行うという目的。
- ④ 新市場開拓のために情報を交換するという目的。
- ⑤ 偵察してきたことを正確に報告するという目的。

b 「そういう目的に使われる言葉」とはどのような言葉か 17

- ① 情報伝達に適した言葉。
- ② 意思伝達に適した言葉。
- ③ 思考するのに適した言葉。
- ④ 読む能力を育成する言葉。
- ⑤ 機能的にあまり優れていない言葉。

問4 二重傍線部C「その道具としての日本語の機能」とはどのような機能か。最も適切なものを①～⑤から選べ。解答番号は

18

- ① 事実確認機能
- ② 感情表現機能
- ③ 情報伝達機能
- ④ 状況読解機能
- ⑤ 思考構築機能

問5 二重傍線部D「着実的確に言葉を使って相手を説得し納得させる工夫、整然と反論し巧みに論駁する技術」とはどのようなことか。最も適切なものを①～⑤から選べ。解答番号は

19

- ① 相手の理論の欠陥を突くディベート能力のことをいい、ことの本質よりも白を黒と言いくるめる工夫や技術のことをいう。
- ② 正確に且つ適切に事実のみを伝えることを旨とし、 unnecessaryな感情や勝手な類推を極力避けるための工夫や技術のことをいう。
- ③ より詳しく、より豊かな内容を心がけ、きっぱりとした冷たい言い方をしないで、相手に配慮した言い方をするための工夫や技術のことをいう。
- ④ やや冷たい言い方になるという難点はあるが、端的に言いきる形で表現するための工夫や技術のことをいう。
- ⑤ 相手の意見をできるだけくみとり、錯綜した考えを整序させ、巧緻な言葉を使って結論を避ける工夫や技術のことをいう。

問6 二重傍線部E「周到的探求のあげくに訪れる妙想」とはどのようなことか。最も適切なものを①～⑤から選べ。解答番号

は 20。

- ① 理論の積み重ねの前に到達できる高度で精緻な虚偽的思考もしくは発想。
- ② 理論の積み重ねの前に到達できる高度で精緻な空想的思考もしくは発想。
- ③ 理論の積み重ねの前に到達できる高度で精緻な現実的思考もしくは発想。
- ④ 理論の積み重ねの後に到達できる高度で精緻な抽象的思考もしくは発想。
- ⑤ 理論の積み重ねの後に到達できる高度で精緻な具体的思考もしくは発想。

問7 二重傍線部F「実感の薄い言葉」とはどのようなことか。最も適切なものを①～⑤から選べ。解答番号は

21。

- ① 物事を具体的に示す言葉ではなく抽象的な表現にも適していない言葉。
- ② 物事を具体的に示す言葉ではなく観念的な表現を中心とした言葉。
- ③ 物事を具体的に示す言葉であり抽象的な表現も可能である言葉。
- ④ 物事を具体的に示す言葉であり極めて現実的な表現としての言葉。
- ⑤ 物事を具体的に示す言葉であり現実離れした表現としての言葉。

問 8 二重傍線部 G 「考えるための道具である日本語の性能が低いのではないかという不安が生じた」とはどういうことか。

最も適切なものを①～⑤から選べ。解答番号は 22。

- ① 日本語が論理的思考に不向きなのではないかという確信を持ち始めたということ。
- ② 日本語が論理的思考に不向きなのではないかという結論に到達したということ。
- ③ 日本語が論理的思考に不向きなのではないかという疑問を抱き始めたということ。
- ④ 日本語がきめ細やかな感情表現に適しているという確信を持ち始めたということ。
- ⑤ 日本語がきめ細やかな感情表現に適しているという疑問を抱き始めたということ。

問 9 二重傍線部 G 「考えるための道具である日本語の性能が低いのではないかという不安が生じた」とあるが、どの言語と

比較してのことか。最も適切なものを①～⑤から選べ。解答番号は 23。

- ① 英語
- ② フランス語
- ③ 中国語
- ④ コリア語
- ⑤ どの言語か分からない。

第2問 次の文章をよく読んで、後の問い（問1～12）に答えよ。

一

私は文章を書くことが余り好きではない。特に出版物に書くのは大嫌いだ。一見して明らかに印刷物(ア)過ジョウ(イ)のこの時代に、どうしてわざわざ過ジョウに「加上」を加える必要があるのか。何処かで誰かが、世界各国の紙の消費量を比較して日本が第何位とかにあるということを指摘し、それによって日本の出版文化の盛大さを示そうとしているのを耳にして、「おやおや」と思ったものである。私には紙の消費量の膨大さは、直ぐさまヘドロ公害その他を連想させるのであって、したがって、印刷物の多さもまた、狭い道路に氾濫している凶器としての自動車と同様に、必要度を越えた(ウ)無(エ)が如何に我々の生存にとつて有害であるかを想い出させるのだ。出版文化の問題どころかそれ以前に生活問題が「その底のここには」存在しているのだ。

それ程までに嫌いな文章を何故今さら書くこうとするのか。答えは簡単明瞭すぎて貧弱だ。つまりはそれをもって暮らしの足しにしようという魂胆なのである。まことに馬鹿々々しい限りである。しかしもう少しましな理由もあるにはある。私の偏見によれば、

A今日の日本は学芸の精神的水準が底抜けに低下して、そのつまらなさは明治以後でも最高を記録しているのではないかとさえ思われる程だ。批評の衰弱は特にはなはだしい。新聞は情報提供という面では進んでいるけれども、れっきとした「批評家」の書く「論壇時評」なども、ほとんど読む必要を感じさせない。しかしその(カ)ソ(キ)上にのる総合雑誌も新聞の「詳しい解説」のような感じでさつぱり食欲をそそらない。つまり、新聞から雑誌までの「平準化」が(ク)貫(ケ)テツ(コ)したのである。「平準化」でもそれが(オ)特(カ)チ(キ)ョウ(ク)をもつて精神の位の高さを保つような「平準化」ならよいが、今の場合はどうもそれと反対のようだ。昔、トーマス・ホップス(注)が「混乱を起(ス)すのに必要な唯一つの能力は、**B**智慧(チ)を含(コ)め(ク)雄弁(コ)である」と言ったことがあって、この近年は全くその通りだなあと思わせるようなことが相継いだものだが、しかし雑誌の場合も「混乱」の方は知らないけれども「智

慧を含めぬ雄弁」という点では大した水準に行っているのではあるまいか。どうしてこんなになってしまったのか。活発な批評精神が満ち溢れてないところには議会主義もいかなる種類の民主主義も育つ筈がないし育った験もないからである。批評精神の喪失はただの暴力と結びつくかそうでなければ追隨的態度にいくかどちらかである。ほんとうにどうしてこういうことになったのか。日本の「高度成長」というのは全く恐いものである。その関連の立入った説明が待たれているといわねばなるまい。

しかし、こういう状態の中ではどうすればよいかということについては私にもくだらないながら一つの案がある。だから下手な文章を好きでない場所に書くことにもなったのだ。その案というのは、**C**すべての基礎的な事柄を一つ一つ人間にとっての必要と**|||**いう観点から検討するという平凡な思考の作業をやるべきではなからうか、ということに過ぎない。基礎的な事柄の中にはもちろん人間感覚その他の諸能力も入っている。何事でも基礎的なものが根本なのであって、それをすつとばして「根源を問う」だとか何だとか言ったとて、それは「智慧を含めぬ雄弁」すなわち「騒ぎ」にしかならない。騒音はあり余って困っている筈だ。もっとも、智慧のなさについては私も人後に落ちないのだから、「基礎的」と言ったのは「初歩的」に訂正させて頂いて、一つの試みを述べてみようと思う。

二

例えば「知る」ということは一体どういうことであろうか。というようなことを言うとはどく「哲学青年」めいて聞こえるけれども、実は私は「哲学青年」などというものは到底信頼すべからざるものだと思っている。「哲学青年」という奴は物を見ないで勝手に「物想い」にふけている者、すなわち物抜きでいるくせに、物について想っていると自分で**カ**錯カクしている者のことを言う名前ではないか、というのが私の考えなのだ。だから「哲学青年」が何かをやらかそうとするとんでもない事をとんでもない方向に向かっつとんでもないやり方でやっつたり、虚ろな眼付きでウロウロしたりするわけなのである。物が見えないのだから、そうなるのは至極当然であつて、その一例をもつてしても**D**「物を見る」ということと「物想い」とが必ずしも同じもの

ではないということ(キ)レキ然としているのだけれども、「知る」ということも「印し」だとか「記す」だとかいった類語群があること―と私は素人の浅智慧で思っているのだが―を考えて見れば分かるように「物を見る」ことから発していることは極めて明らかであるのではなからうか。さしあたって今ここでは「知る」ということが「物を見る」ということとつながるものであって、それはしばしば「物想い」とはむしろ反対にさえなるのだという点に注目しておけばよいのだ。

しかし、「知る」ことにも少なくとも二通りはあって、両方とも必要なのだけれども、一定の条件の下ではそのE二つの知り方の間に大変なちがいが生まれるように思う。だれであったかよその国の或る文芸批評家で次のようなことを言った人がいた。「宿屋のオカミが或る泊まり客をどのようにもてなすべきかと考える場合に、その客のふところ具合を知る事も大事ではあるが、もっと大事なことは彼の哲学を知ることであり」、同様にして「敵と戦おうとする將軍にとつて、敵の数を知ること大切にはちがいないが、しかもっと大切なことは敵の將軍の哲学を知ることだ」というのである。つまり、彼によれば、知っておく必要がある事柄には二通りのものがある、極く普通の商売の場合であろうと非常の戦いの場合であろうと、およそ他人と接する場合には、相手がどういう「正しさ」についての感覚を持っているか、どういう物の感じ方や考え方の持主であるか、といった種類の事柄を知ることが一番必要なことであつて、ふところ具合を推し測つたり、敵の数を計算したりするだけで対処の仕方を決めると較べると、それははなはだ(ウ)遠であるように見えるかも知れないが、本当は一番重要なだけでなく「實際的」でもあるというのだ。

両方の例に共通している特チヨウはどちらも自分と(ウ)利害の反する全く「見知らぬ相手」と相対しているということだ。少しばかり逆説めいて(ミ)恐シユク至極だが「見知らぬ相手」と対し合っているからこそ相手の「哲学」を「知る」ことが大事になつて来るのだと私は考えているのである。そうしなければ相手が見えないからである。私も「他者の理解」というようなことを一般原理風によく言ったりしたもののだけれども「対して」いないところにはそんなものが出て来るわけではないのだ。それに、一般原理という形で指摘するのは、比較的易しいのだが表面に出ない形で表わされている文書の中にその具体的な姿を見て取ることは、これ

もそれ程むつかしい事ではないとはいえ、いくらかの(サ)訓^レされた眼と物に即した読みの想像力を必要とするのではあるまいか。いわんや本場に「敵」と対決して、「妨害情報」やそれに対して反射的に生じる「陰謀説的考え方」その他の内外両面にわたる精神的障害を自力で払い落とし、相手の「哲学」を手に取るように見て取るためにはどれだけの(シ)タン^レ錬と苦い経験と「高い精神」を必要とするか、簡単には想像出来ない筈である。ファン・バン・ドン(注2)が「我々は爆弾の下に居るのではなく爆弾に立向かっているのだ、これは哲学である」という時、爆弾の下で逃げ回った経験しか持たない私達には「分かった」などと偉そうなことはとても言えない「何か」がそこには在るのだ。それは「正しさ」の感覚を中心にした相当大的な世界であることに間違いない。しかし私達の中に、何でも分かったような顔をする学歴社会特有の「知ったかぶり」がある限り、人間の運命を左右するかも知れない存在について、具体的な姿において知ることとはとても出来っこないだろう。「知らない」ことの自覚がないところにはそもそも「知ろう」とする意欲が起こらないからである。このことは「隣国」についての私達の無知についても同様である。

いろいろと考えた結果をふり返って見ると「知る」ということには確かに二通りあって、一方は「計算」ばかりする方でそれによつて分かるのは「ふところ具合」と「頭数」なのだが、人間が見えるというわけにはいかない。計算の結果見えるのは数字だけだ。利害必ずしも相反しない同じような連中が揃っている場合ならそれだけで大体のことは足りるのだけれども、「見知らぬ相手」と対し合うことになる計算だけでは何も出来ない。相手の感受性や考え方をちゃん見なくては駄目なのだ。そうでなければ(ス)肝^レジンの点をお留守にすることになり易いからである。日本の社会がどうしてこんなに勘定ばかりする「計算社会」になったかといえ、一つの理由は日本が「見知らぬ者」の相対し合う社会ではなくて同じような者が相集まってお互いに初めから「分かち合おう」とするような社会であって、言ってみれば「自明性の領域」を出来るだけ大きくしようとする傾向がいつも内部にはたらいっている社会であり、従って「数える」だけで大体のことは片付くものだから、現代資本主義の機械導入とともに「計算」の方だけが異常に能率を上げる結果となったという点にあるのではなからうか。F計算主義だけになってしまえば「何が知るべき大事

なことであるか」を見極める比重感覚が失われて来るのはかなり簡単だ。利益数量の「成長」が価値とされるのだから、「正しさ」とか「真なるもの」とかいった中心価値が隅の方へ押しやられてしまうからである。それは精神的世界の腐朽である。

三

私は、戦前に日本の支配体系と闘った人をほとんど無条件に尊敬するし戦後にベトナムの状態を報告してくれた人々にももちろん敬いを払っているけれども、**G** 日本社会としてはその精神的局面での自由な民主性という点でまだ相当未熟なのだ、と考えないわけにはいかない。その精神的未熟の上に「新重商主義」の「高度成長」がもたらした精神的腐朽が重なって来たのだ。

H 未熟のままに腐朽すればそれは奇妙な立枯れである。現代日本社会の精神構造が、この「未熟」と「腐朽」との奇妙な結合だということとは、肝に銘じておくべきことのように思われる。何故かという何人も此処に生きている以上その構造からア prioriに自由であることは出来ないからである。精神の「腐朽」を抑えて「未熟」を「成熟」へと進めなければならぬ、という課題を自分の中に負っているのだ。それは単純な二重性ではない。「抑える」という力と「進める」という力は逆方向の力なのだ。腐朽に対しては前者を、未熟に対しては後者を同時に、しかも「来る日も毎日朝から晩まで」不断に自分の内で働かせていなければならないのだ。そうでなければ「新重商主義」が生み出して来る「計算主義」に対抗して**I** 視覚的感受性を備えた「理性」と「判断力」を成熟させることはできないのだ。

(藤田省三「雄弁と勘定」『藤田省三小論集 戦後精神の経験Ⅰ』影書房。なお出題にあたって一部手直ししたり、省略したりした。)

注1 トーマス・ホブズ：17世紀イギリスの哲学者・政治学者 『リヴァイアサン』における人間の自然状態の認識「万人

の万人に対する闘い」は、ひとつの認識の到達点を示している。

注2 ファン・バン・ドン：現代ヴェトナムの代表的政治家 ヴェトミンの結成・八月革命の指導 ヴェトナム社会主義共和国初代首相

問1 傍線部(ア)～(ソ)は熟語の一部である。これに当る漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれひとつずつ選べ。解答番号は 24 ～ 38。

24 (ア) 過ジヨウ

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| ジヨウ余 | ジヨウ舌 | ジヨウ就 | ジヨウ石 | ジヨウ況 |

25 (イ) 無ダ

- | | | | | |
|----|----|----|----|----|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| ダ捕 | ダ作 | ダ行 | ダ落 | ダ性 |

26 (ウ) ソ上

- | | | | | |
|--------|------|-------|--------|---------|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 進路をハバむ | ネライ目 | マナ板の上 | 世事にウトい | 編み目がアラい |

27 (エ) 貫テツ

- | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 冷テツ | 銑テツ | 蹉テツ | 賢テツ | 更テツ |

28 (オ) 特チヨウ

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| チヨウ戒 | チヨウ講 | チヨウ子 | チヨウ笑 | チヨウ収 |

29 (カ) 錯カク

- | | | | | |
|-----|-----|------|-----|-----|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 収カク | 巖カク | 視聴カク | 間カク | 企カク |

36 (ス) 肝ジン

- ⑤ 幸ジン
- ④ 理不ジン
- ③ 凶ジン
- ② 聖ジン
- ① 信ジン

33 (コ) 恐シユク至極

- ⑤ シユク福
- ④ シユク尺
- ③ 下シユク
- ② 貞シユク
- ① 静シユク

30 (キ) レキ然

- ⑤ 太陽レキ
- ④ 瓦レキ
- ③ 還レキ
- ② 軋レキ
- ① 履レキ

37 (セ) 敬イ

- ⑤ イ凶
- ④ イ敬
- ③ イ託
- ② イ冠
- ① イ上

34 (サ) 訓レン

- ⑤ 熟レン
- ④ 収レン
- ③ 一レン托生
- ② 失レン
- ① 閑レン

31 (ク) ウ遠

- ⑤ ウ飼い
- ④ ウ年
- ③ ウ闊
- ② ウ毛
- ① ウ余曲折

38 (ソ) 肝にメイじて
おく

- ⑤ 連メイ
- ④ 任メイ
- ③ 感メイ
- ② メイ目
- ① メイ走

35 (シ) タン錬

- ⑤ タン白
- ④ タン末
- ③ タン息
- ② タン鉄
- ① タン水

32 (ケ) リ害

- ⑤ 遊リ
- ④ 表リ
- ③ 赤リ
- ② リ屈
- ① リ権

問2 二重傍線部A「今日の日本は学芸の精神的水準が底抜けに低下して、そのつまらなさは明治以後でも最高を記録しているのではないか」というときの、「学芸の精神的水準の低下」とはどういうことか。最も適切なものを①～⑤から選べ。解答番号は 39。

- ① 活発な批評精神がずいぶん高揚してきたということ。
- ② 活発な批評精神が底抜けの明るさをもってきたということ。
- ③ 活発な批評精神が少しずつ発揮されてきたということ。
- ④ 活発な批評精神がなくなってしまうたということ。
- ⑤ 活発な批評精神が少しずつ芽生えはじめたということ。

問3 二重傍線部A「今日の日本は学芸の精神的水準が底抜けに低下して、そのつまらなさは明治以後でも最高を記録しているのではないか」とはどういうことか。最も適切なものを①～⑤から選べ。解答番号は 40。

- ① 新聞も雑誌も個性化し、それなりに独自性のある批評を網羅的にとりあげるようになったということ。
- ② 新聞も雑誌も個性化し、何ら独自性のない批評をただ単に羅列しているにすぎなくなってしまうたということ。
- ③ 新聞も雑誌も平準化し、何ら独自性のない批評をただ単に羅列しているにすぎなくなってしまうたということ。
- ④ 新聞も雑誌も平準化し、それなりに独自性のある批評を網羅的にとりあげるようになったということ。
- ⑤ 新聞も雑誌も平準化し、それなりに独自性のある批評をただ単に羅列しているにすぎなくなってしまうたということ。

問4 二重傍線部B「智慧を含まぬ雄弁」とはどういうことか。最も適切なものを①～⑤から選べ。解答番号は

41

- ① 詳しく解説をして、どのように考えればいいのかという方向性を示すことができたさわやかな弁舌。
- ② 詳しく解説をして、どのように考えればいいのかという方向性を示すことが少しできたさわやかな弁舌。
- ③ 詳しく解説をしすぎて、どのように考えればいいのかという方向性を示すことができなかった毒舌。
- ④ 詳しく解説をしすぎて、どのように考えればいいのかという方向性を示すことが少しできた毒舌。
- ⑤ 詳しく解説をするにすぎず、どのように考えればいいのかという方向性を示すことができない饒舌。

問5 二重傍線部B「智慧を含まぬ雄弁」がもたらしたものは何か。最も適切なものを①～⑤から選べ。解答番号は

42

- ① キレ易くなるか、付和雷同的行動様式をとらなくなるかのどちらかである。
- ② キレ易くなるか、付和雷同的行動様式をとるようになるかのどちらかである。
- ③ キレにくくなるか、付和雷同的行動様式をとらなくなるかのどちらかである。
- ④ キレにくくなるか、付和雷同的行動様式をとるようになるかのどちらかである。
- ⑤ キレ易くもならず、付和雷同的行動様式をとるようになるものもない。

問6 二重傍線部C「すべての基礎的な事柄を一つ一つ人間にとっての必要という観点から検討するという平凡な思考の作業をやるべきではなからうか」というときの筆者の思い入れはどのようなものであろうか。最も適切なものを①～⑤から選べ。解答番号は 43。

- ① 現代社会はコモセンスを重視しており、コモセンスを軽減したいという思い入れ。
- ② 現代社会はコモセンスを重視しており、コモセンスを復活したいという思い入れ。
- ③ 現代社会はコモセンスを軽視しており、コモセンスを軽減したいという思い入れ。
- ④ 現代社会はコモセンスを軽視しており、コモセンスを復活したいという思い入れ。
- ⑤ 現代社会はコモセンスを軽視しており、コモセンスを絶滅したいという思い入れ。

問7 二重傍線部D『物を見る』ということと『物想い』とが必ずしも同じものではない」というときの「物を見る」と「物想い」のちがいはどこにあるか。最も適切なものを①～⑤から選べ。解答番号は 44。

- ① 「物を見る」と「物想い」のちがいは、前者が「実」とかかわり、後者は「虚」とかかわっている点である。
- ② 「物を見る」と「物想い」のちがいは、前者が「実」とかかわり、後者は「心」とかかわっている点である。
- ③ 「物を見る」と「物想い」のちがいは、前者が「虚」とかかわり、後者は「実」とかかわっている点である。
- ④ 「物を見る」と「物想い」のちがいは、前者が「虚」とかかわり、後者は「心」とかかわっている点である。
- ⑤ 「物を見る」と「物想い」のちがいは、前者が「心」とかかわり、後者は「虚」とかかわっている点である。

問8 二重傍線部E「二つの知り方」とはどういうことか。最も適切なものを①～⑤から二つ選べ。解答番号は

46。
(順不同)

- ① 形としての把握
- ② 数としての把握
- ③ 客としての把握
- ④ 相手の哲学の把握
- ⑤ 相手の願望の把握

45

問9 二重傍線部F「計算主義だけになってしまえば『何が知るべき大事なことであるか』を見極める比重感覚が失われて来

る」というとき、「計算主義に陥ってしまうと、大切なことを見極める比重感覚が失われた」ことの具体例として最も適切なものを①～⑤から選べ。解答番号は

47。

- ① ひとりの異性を深く知りたいと思っている。
- ② 数多くの異性にモテたいと思っている。
- ③ 自分の仕事を着実にやっていこうと思っている。
- ④ 何が正しいかは時代によって変わってくると思っている。
- ⑤ 何が正しいかは人によって違っていると思っている。

問10 二重傍線部 G 「日本社会としてはその精神的局面での自由な民主性という点でまだ相当未熟なのだ」というとき、「精

神的未熟さ」を示すものとして最も適切なものを①～⑤から選べ。解答番号は 48。

- ① 日本社会において大切なものは組織力である。
- ② 日本社会において大切なものは活動力である。
- ③ 日本社会において大切なものは忍耐力である。
- ④ 日本社会において大切なものは責任感の認識である。
- ⑤ 日本社会において大切なものは景気動向である。

問11 二重傍線部 H 「未熟のまま腐朽すればそれは奇妙な立枯れである」というとき、「未熟」と「腐朽」とはどういうこ

と。最も適切なものを①～⑤から選べ。解答番号は 49。

- ① 未熟とはわがまま勝手なことであり、腐朽とはそのままの状態成長することを諦めたことを意味する。
- ② 未熟とはわがまま勝手なことであり、腐朽とはそのままの状態成長することをやめたことを意味する。
- ③ 未熟とはわが身を律していくことであり、腐朽とはそのままの状態成長することをやめたことを意味する。
- ④ 未熟とはわが身を律していくことであり、腐朽とはそのままの状態成長することを諦めたことを意味する。
- ⑤ 未熟とはあるがままの状態のことであり、腐朽とはそのままの状態成長することをやめたことを意味する。

問12 二重傍線部Ⅰ「視覚的感受性を備えた『理性』と『判断力』とはどういうことか。最も適切なものを①～⑤から選べ。

解答番号は

50

。

- ① 抽象的に物事の正しいすがたをイメージし、行動や考え方の規準を確立すること。
- ② 抽象的に物事の正しいすがたをイメージし、行動や考え方の規準を変化させること。
- ③ 具体的に物事の正しいすがたをイメージし、行動や考え方の規準を設けないこと。
- ④ 具体的に物事の正しい実像をイメージし、行動や考え方の規準を確立すること。
- ⑤ 具体的に物事の正しい実像をイメージし、行動や考え方の規準を変化させること。

平成15年度 長崎国際大学入学試験

B 日 程 入 試

< 解 答 >

国語 I・II

国語 I・II(解答番号 1 ～ 50)

解答番号	解答	解答番号	解答
1	1	26	3
2	3	27	5
3	5	28	1
4	2	29	3
5	4	30	1
6	3	31	3
7	4	32	1
8	1	33	4
9	2	34	5
10	4	35	2
11	5	36	1
12	1	37	5
13	4	38	3
14	4	39	4
15	2	40	3
16	2	41	5
17	1	42	2
18	5	43	4
19	2	44	1
20	5	45	2
21	2	46	4
22	3	47	2
23	5	48	5
24	5	49	2
25	4	50	4

解答番号 45と 46は順不同